

## 第1回協議会での委員の主なご意見に対する学校の取組みや改善策について

	分野	第1回協議会での委員の方々からのご意見要旨	高校の取組・改善策(案)	参考
広報等	受験生徒数の減少について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化が進む中で、吉城高校の志望者を増やせば他校が減る。中学生の取り合いはいかがなものか。生徒数が減ることは問題か。</li> <li>・吉城高校の入学者が減少したのは、高山市内からの入学者減と、古川中の生徒が昨年今年と爆発的に飛騨神岡高校に行ったこと。その理由をしっかりと分析する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの高校が魅力を競うことで飛騨地区全体の教育の質が高まり生徒の選択肢が増える。</li> <li>・学校規模が小さくなると、科目選択や部活動、生徒相互の切磋琢磨が弱くなる等のデメリットの一方、生徒に細かく目が届くメリットもある。</li> <li>・入学者数の減少は、主に高山市内の生徒が吉城高校を選ばず、高山西高校への入学者が増えたこと、古川中学校の生徒が多数、飛騨神岡高校を選んだこと等。両校に比して、吉城高校が魅力を十分に伝えられなかった。</li> </ul>	
	学校のPR・広報について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生への高校説明会は、プレゼンの上手な先生に説明して欲しい。</li> <li>・高校生にどんな力を身に付けさせたいかの方向性を話して欲しい。</li> <li>・中学生にはまだ進路を自分で選択する力がないので、高校の情報や取組みをいかに上手に伝えるかが大切。生徒の魅力的な姿を見せることが効果的。</li> <li>・YCKの活動など、地域ありきの発想は、中学生や保護者に伝わりにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒にどのような能力を身に着け育てるのかを明確に示していきたい。</li> <li>・入学後の学力の伸長や多様な進路ニーズへの対応は、本校の特色である。YCK等を通したキャリア教育はそれが生徒にどんなメリットがあるかを伝えたい。</li> <li>・中学校での説明会、8月オープンスクール(今年度全て生徒が運営)や10月高校説明会では、生徒を前面に、生の姿や声を伝える。</li> <li>・ご指摘のように行政的な目線では、中学生や保護者に響かない。地域の教育資源を活用し、生徒を成長させることが目的であり、結果として、地域に愛着を持った、将来、地域で活躍する人が育つのが理想と考える。</li> </ul>	
授業改善	授業について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校の授業はどうしても講義形式になる。子供たちが自分たちで学ぶ取組みを共に行い、生徒を育てていきたい。</li> <li>・熱心に教えていただいている先生方の姿を見て、今後も自信を持って指導していただきたいと感じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対話型、探究型の「アクティブ・ラーニング」を積極的に導入。プレゼンなど、生徒が自ら発信する場面を多くする。</li> <li>・中学校との連続性を考え、互いの授業を積極的に見学し意見交換できる場をつくる。</li> <li>・プロジェクターなどICT関係の教育機器を充実させる(昨年度1台、本年度2台購入、順次拡充)。</li> </ul>	

学科・コース、カリキュラム、制度に関すること	理数科について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が高校を選んだときは、将来文系大学に進すると決めていたので吉城高校理数科の選択肢はなかった。</li> <li>・理数科は名称が古臭いのではないか。「特進科」など保護者にも伝わる名称がよいのではないか。</li> <li>・理数科は理数のイメージがあり、進学クラスの認識がまだまだ低い。「特進」は吉城の特色として売りになると思う。</li> <li>・今後、飛騨アカデミーも吉城高校との関わりを考えていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飛騨地区唯一の進学型専門学科であり、大切にしていきたい。</li> <li>・理数科独自の行事や、探求型の課題解決学習により、今後の高大接続改革(大学入試改革)にも対応できる学科である。</li> <li>・SSH(スーパー・サイエンス・ハイスクール)への申請や飛騨アカデミーとの連携を模索したい。</li> <li>・同時に文系進学にもしっかりと対応できることもアピールしていく。名称は「理数科」にこだわらない。</li> </ul>	資料3
	キャリア教育・YCKの取組について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々にYCKの認識が高まるといい。</li> <li>・吉高3年生と話す機会があったが、将来「働く」ということに関する意識が驚くほど希薄であった。</li> <li>・YCKプロジェクトは地域を教材とした「キャリア教育」であり、そこで学んだ生徒が、将来、地域で活躍することを期待できる。</li> <li>・YCKによって、地域の大人が高校生に夢を与えられるような活動に期待したい。地元に戻って就職するようなルールが敷けると良い。</li> <li>・今進めていこうとしているYCK活動を、先輩、後輩の関わりを持って、世代を超えて続けて欲しい。</li> <li>・YCKを授業で位置づけることは可能か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・YCKは、学校と地域が連携し、生徒の成長と地域の活性化を進める魅力ある取組と考える。</li> <li>・地域で活躍する大人と関わる機会を持つことで、生徒の「働く」とに関する意識を高めたい。地元就職を促進する仕組みにも繋がる。</li> <li>・これら活動に教員が大きく携わっているが、地域とのコーディネーター的役割を担う人材確保や、地域の団体が主催する行事に生徒が参加することが有効的と考える。</li> <li>・高校では、「社会に開かれた教育課程」として、可能な範囲で授業に位置づける。3年生の選択科目、「地域政策(政治経済)」、「国際観光(英会話)」、「生活と福祉」等の開講を準備したい。</li> </ul>	資料3
	単位制について	「単位制」の魅力は何か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い科目履修や柔軟な単位認定が可能であり、それに合わせ教員の配置も増加する。</li> </ul>	資料4
	くくり募集について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理数科と普通科の「くくり募集」はできないのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県教委に決定により実施は可能。選択肢の1つでもある。</li> </ul>	資料5

学校運営に関すること	「チューター制度」について	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外の大学のように2年生の先輩が1年生の世話をする「チューター制度」のようなシステムを取り入れることは可能か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8月オープンスクールでは、在校生が中学生に学校紹介、案内を行うことができた。入学後、様々な場面で先輩が支援するしくみをつくりたい。</li> <li>理数科では2・3年合同のLHRを実施している。1・2年生での合同LHRやさらなる交流を検討したい。</li> </ul>
	「メンター制度」について	<ul style="list-style-type: none"> <li>「メンター制度」的な外部の支援の中で、YCKのプロジェクトリーダー達は、プレゼンを経験したり、人の役に立つ喜びを味わっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>YCKプロジェクトチームのアドバイザー的な存在として、今年度より、地域の有資格者の協力を得ている(関口さん)。</li> <li>「教師による指導」と「外部のメンターによる支援」を組み合わせ、より多くの生徒に飛躍のチャンスを広げたい。</li> </ul>
	部活動について	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の大会があるときは生徒や職員にメール配信などで広報し、先生方にも応援に参加してもらえると生徒たちは喜ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大会日程や時間などの情報を「メール配信システム」を利用し、生徒保護者に積極的に広報することとした。</li> <li>平成30年度より、独自選抜枠を、これまでのサッカーに加え、陸上、女子バレーボール、剣道に拡充。</li> </ul>
地域連携に関すること	中学校との連携について	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学生と高校生がともに関われる古川祭英語観光案内ボランティアをより充実させたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校生が中学校と共同で参加し、振り返りを行うことで理解を深めさせたい。保小中高の間で様々な連携の可能性があると考えられる。</li> </ul>
	サイエンス教室 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>「小学生サイエンス教室」は良い取組みだが神岡小学校に案内が来ていない。古川だけでなく飛驒市全域に広げてはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度から神岡小にも案内、8名の参加があった。</li> <li>「小中学生学習サポーター」を今年度から国府中学校にも拡充。</li> <li>今年度、「英会話」で増島保育園の園児に高校生が英語の絵本の読み聞かせなどの交流も行った。</li> <li>これらの活動により、異年齢間の繋がりや、「人に教えること」による生徒の成長を期待する。</li> </ul>

地域連携に関すること	地域との連携、地域からの応援について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に大切な高校であり、応援団の方々を増やしていただきたい。</li> <li>・地域の繋がりを考えて、古川祭を学校の休業日に振り替えてはどうか。</li> <li>・「市立高校」という認識であり、市がこれまで支援してこなかったことが問題。市にも協力できることがたくさんある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の未来に貢献できる高校として評価されるように努力したい。</li> <li>・古川祭を休校日にできるか年間行事の見直しを検討する。今年度から飛騨市のご配慮で、杉崎のサッカーグラウンドで無償で練習できるサッカー部が、祭りの手伝い等の要請があれば、協力したいとの意向。</li> <li>・柏葉祭は今年度から試験的に一般公開とした。来年度70周年記念事業を好機ととらえ、地域や卒業生の方々との連携を深めたい。</li> <li>・「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」があり、運営予算は県だが、学校運営は地域住民の意思が反映される制度も選択肢の1つである。</li> </ul>	資料6
	アルバイト、インターンシップ等、就業体験について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は真面目だが、もっとのびのびと、企業と密着しても良いのではないか。</li> <li>・世間でもまれるような活動を経験させると良い。高校生がアルバイトで金を稼ぐのは良い体験。大人や地域が見守る中で経験を積みながら、多くの生徒に地域のことを知ってもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就業体験など、実社会と関わる体験の重要性は学校として十分に理解している。経済的な理由でアルバイトが必要な生徒もいる。</li> <li>・現在、悪質な事業者による不法な就労や搾取を防ぐため、就業先の確認、生徒の成績の状況、保護者の承認等を受けて許可制としている。</li> <li>・今後、高校1年生段階で「総合的な学習の時間」の一環として、企業の方々との交流の機会を設けたり、3年生「政治経済」の授業で企業の方の話聞く、また、インターンシップの規模や方法について見直し(現在は公共機関や医療機関へのインターンシップの希望者が多い)等により、地元企業への理解を促進したい。</li> <li>・また、地域外に進学した生徒と地元企業を繋ぐ仕組みについて、商工課とも連携しながら検討したい。</li> </ul>	